令和元年度学校評価書

学校名	兵庫教育大学附属小学校

1　学校教育目標

人間として生きぬく力の育成

・ねばり強く問いつづけ，よりよいものを創り出す子
・はげまし，支え合い，共に伸びる子
・強い心とたくましい体をつくる子

2　本年度の重点目標

・子どもたちの学力保障と基本的生活習慣等の定着
・地域や保護者のニーズ及び多様な個性を持った子どもたちへの対応
・勤務時間の適性化と教職員の服務規律の確保
・附属文化の継承と再構築

3　自己評価結果（達成状況）【A：達成している　B：概ね達成している　C：あまり達成していない　D：達成していない】

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
学校運営	**○組織運営** ・管理職がリーダーシップを発揮し，大学・学部と一体となった学校運営を行う。	・校長と副校長が大学と一体となった学校運営を心掛け，教務主任と共に教職員の指導に努めた。 ・大学附属学校としての役割と責務を理解する中で教育活動を展開し，大学からの指導の下，職場の労働環境の改善をめざした。 ・働き方改革として，留守番電話対応や行事の見直し，労働時間の意識化を図った。	B	・管理職が，リーダーシップを発揮し，教師としての資質の高い人材を育てる。 ・行事の精選や事務処理の負担軽減等により，勤務時間の適正化，業務のスリム化を図る。
	○学年・学級経営 ・学校教育目標から，学年及び学級の目標を定め，めざす子ども像に向かい子どもの姿を見取りながら計画的に教育を行う。	・本校の特徴である色別縦割り活動について６年各担任を中心に全職員が一丸となり各行事に取り組んだ。 ・学年主任を中心に，学年で情報交換を行いながら共通理解を図り，目標達成のため課題を明確にして教育活動に取り組んだ。 ・学期ごと行事ごとに学年経営と学級経営を細部まで振り返り，次の活動の糧とした。	B	・学年･学級経営の振り返りの情報交換を短時間で効果的に行う策を練る。 ・教職員間の情報共有を小まめに行い共通理解に努める。
	○危機管理 **環境整備** ・児童にとって安全･安心な環境を整える。 **防災教育** ・実践的な態度や能力を育てる防災教育の推進を行う。 **健康・安全教育** ・生命を尊重する健康教育と安全教育の推進を行う。	・門の開閉時間の確認を行い開閉の管理を行った。 ・警備員による入構者のチェックや，保護者や来校者に協力を呼びかけ保護者名札や入構証の着用，挨拶の励行などで警備を強化した。 ・遊具及び教室の施設備品について，全職員や業者による定期点検を行い，適宜補修や危険回避措置を講じた。改修計画を立て具体的な整備を推進している。 ・防災教育担当教員を中心に計画的に防災訓練を実施し，児童の実践的防災能力を高めた。 ・健康･安全について，栄養教諭，養護教諭を中心に担任と連携し継続的に児童に指導を行った。 ・児童の登下校の安全及びマナーの指導を継続的に行い，保護者にも児童の登下校の安全及びマナーの指導についての啓発を行った。	B	・入構警備の徹底を行う ・幼小中合同の避難訓練をより現実を想定しての実践的なものにする。 ・挨拶,廊下階段の歩き方や校舎内での過ごし方,整理整頓等,安全指導と美化指導により努める。 ・児童の通学における安全面,公共マナーの遵守を保護者の理解と協力のもと，より努めて指導する。
	○保護者との連携協力 ・学校教育目標の達成をめざし，保護者と学校の連携を進める。	・PTAの協力体制のノウハウや引き継ぎが確かなものになっており，創意工夫のある活動を推進した。 ・PTA役員を中心に様々な学校行事への支援や校内環境の充実などが積極的に行われ，学校との連携ができた。	A	・保護者の負担軽減を考慮しつつ，保護者に大学附属としての学校運営の理解を促し，PTAとしてさらに連携を行っていく。

3　分野・領域ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・大学附属学校としての難しさもあろうが，児童が地元からくる以上，地域との連携は保護者頼りでは不安の部分もあるかと思います，特に登下校時の児童の安全，交通マナーの指導は，重要と思います。 ・学級力を高める取組（例：学年間で共通目標の設定，低・中・高の学年層で段階的な手立て）を基に，振り返りや情報交換・共有をされるのでしょうか。 ・広範囲の地域にわたる保護者との連携がA評価であることに対してその要因を知り，参考にさせていただきたい思いです ・B　管理職が，リーダーシップを発揮し，附属学校の中での責務を理解された教育活動が推進されている。 ・学年，学級を越えた情報交換・情報共有の一層の推進をお願いします。 ・具体的で測定可能な目標設定とその評価プロセスがなければお互い評価結果Aを付けにくいと思われる。学校運営面では，積極的な改革立案とその実行が現れた年度であった。限られた人数でより働き易くするためには他校での実績を参考にするのみならず，一般企業や私立校の例を参考にするのも良いと思います。ペーパーレスの推進とITツールの活用は，必須です。 ・概ね的な評価であると思います。学校，先生方，保護者の方々には本当にがんばっていただいていると感じます。 ・組織運営，学年，学級経営･危機管理･保護者との連携協力の各評価項目において，目標達成のための取組が概ね適切に実施されている。特に，保護者との連携教育が積極的に行われたことは評価できる。取組達成の状況欄開の記載内容がすべて達成した内容となっているため，評価がAとBになっている違いが判りづらい。 すなわち，取組達成の状況欄から，なぜBなのかがわからない。「おおむね達成されたが，少しこういう点で改善の余地がある。取組達成の状況）→だから，こういった改善の方策をとる。（改善の方策）」といった流れの方がわかりやすいと考えます。

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
教育・研究活動	**○教育活動** ・教育課程の改善や学習指導方法の工夫などにより確かな学力の形成をはかる。	・「学ぶ力を育む　～個と集団の学びのあり方を探る～」のテーマのもと，前期授業実践交流会，後期授業実践交流会，研究発表会を行った。教師は自己の力量を高めながら児童の学力形成に努めた。 ・CRT検査によって学力の全体的な傾向を把握することで，基礎的基本的な学力を充実する取り組みを続けている。	B	・活用する力が高い児童がいる反面，学力の定着が十分ではない児童もいるため，基礎的・基本的な学力が身につくような学習活動を充実させる。 ・附属幼稚園との連携した教育活動を推進する。 ・附属中学校との授業交流や学力調査結果提供など連携を進める。	・教育活動，研究活動においては，先進的な取り組みをされている。 ・毎年CTR検査をおこなっているのであれば，その結果を，中学校に共有することで，児童，生徒の学力向上に生かせるのではないでしょうか。 ・A「未来デザイン」の成果に期待しています。 ・教育・研究活動の評価はAとしても良いぐらい教員は熱心に指導されています。教育も学習も健康も研究も意識を高めることで改善されるとは思いますが，その意識を高めるための方法の一つとして，目標を設定することが上げられます。子供たちと共に目標を設定したり教職員間で目標を共有したりするとより意識が高まるかもしれません。 ・適切な評価がなされていると思います。特に未来デザインについては力を入れている印象で新年度が楽しみです。
	○子ども理解 ・子ども一人一人の内面に対する共感的な理解を深め，心のきずなを深めるとともに，子どもが持っている良さや可能性を引き出し，それぞれの個性をより発揮できるよう指導する。	・個に応じてきめ細やかに指導と支援をするために，生徒指導上の課題，学校生活面での課題等を教員間で共有し，子ども理解に取り組んだ。 ・様々な支援及び配慮を要する子どもたちへの対応として，スクールカウンセラーや大学の専門家と連携をとって，よりよい子どもの発達を支援するための取組を継続的に行っている。	B	・校内の子ども理解に関する研修の充実を図る。 ・教師が一人一人の子どもと向き合える機会を計画的に持てるようにする。	
	○健康な体づくり ・子どもたちが抱える心身の健康課題に適切に対応し，主体的に食事，運動，休養及び睡眠の調和のとれた健康な生活を送るための基礎を培うことをめざす。	・体育では，運動文化の視点から児童の実態にあった教材づくりを行い，校外行事と関連付けながら実践することで健康な体作りをめざした。 ・家庭での生活習慣を適正に保つために保護者に対して保健だより，給食だよりによる啓発活動を推進するとともに，学校生活の中での安全意識を高めるために学級指導を繰り返し行った。	B	・自分の生活の中で自ら健康な体を作る意識を高めさせる。 ・基本的な生活習慣の確立のため，「早寝・早起き・朝ご飯」等，家庭への啓発活動を充実する。	
	○研究活動 **全国規模の研究発表会の開催等による研究成果の普及・啓発** ・附属学校の研究成果について，全国規模の普及・啓発を図る。 **研究開発学校制度等への応募** ・文部科学省による研究開発指定などを積極的に活用するため，積極的な応募を行う。	・本年度は，研究発表会を2日間の終日開催で行った。県外・県内から400名ほどの教員の参加があった。 1日目は，未来デザイン（生活科を含む），道徳の公開授業及びテーマ別分科会を行うとともに「子どもの夢をデザインする授業～直観と理論をつなぐビジョンのアトリエ～」をテーマに会社経営者　佐宗邦威氏の講演会を行った。2日目は各教科の公開授業と分科会を行うとともに「学びの質を高める学習環境デザイン～子どもの学びをとらえる視点を考える～」をテーマに東京大学大学院教授　藤江康彦氏の講演会を行った。 ・地域への本校教育の還元活動として，年2回の教科別授業実践交流会を実施し，研究協議や情報公交換を行い，地域の学校の研究活動に貢献した。また，研究の成果発表として，他府県他市町に出向き，公立校教員を対象に実践発表を行った。 ・平成 29 年度より平成 32 年度まで，4 年間の文部科学省主催「研究開発学校」の指定を受け，本年度は第 3 年次の研究に取り組んだ。 **＜研究開発課題＞**社会の一員として新たな問題を創造的に解決する能力を育むデザイン思考教育を実践する新総合領域「未来デザイン」の教育課程に関する研究開発	A	・一人一人に向き合いながら丁寧に個に応じた指導をより心がけていく。 ・新年度，新総合領域「未来デザイン」のまとめの時期に入る。教科との関連性や教育活動との整合性を整理していく。	

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
地域・他校種連携	○開かれた学校 ・地域への貢献をめざし学校の教育的資源を生かす ・地域や社会とつながる教育をめざし教育活動を計画，実施する。	・小野市と兵庫教育大学との地域連携推進事業の「理科&科学の地域でのサイエンス祭」へ，本校教員が講師として参加した。 ・地元の企業がスポンサーで社郵便局から交通安全のお守りはがきの寄付があった。全児童に配布し，はがきを書くきっかけと学びに繋がった。 ・地域主催の陸上大会や駅伝大会等のスポーツ行事に積極的に参加した。	B	・「未来デザイン」での活動は，新年度まとめの４年目に入るので，地域のつながりの定着化を図る。 ・スポーツ以外の地域行事への参加も模索していく。	・素晴らしい取り組みをされている。 ・広報活動を推進することで地域に附属学校園の取り組みを知ってもらうことが必要かと思います。 ・小野市だけでなく北播磨地域の市町や教育施設との連携，地域団体の参画等をさらに進めていきたいと思います。 ・他校や大学との連携，教育実習の部分は，連携することで附属小の運営，教育，研究がより良いものに発展していくように思われる。 ・地域への貢献，地域や社会とつながる教育のところは，未来デザイン／フェスティバルの題材に地域産業を選定することや，工場見学等の施設訪問に関する内容を記述してはいかがでしょうか。 ・適正な評価がなされていると思います。地域行事への参加はむずかしい事ではあると思いますが，今後も続けてほしいです。 ・開かれた学校･大学及び附属間連携･教育実習の各評価項目において，目標達成のための取組が概ね適切に実施されている。特に，小野市と兵庫教育大学との地域連携推進事業である「理科&科学の地域でのサイエンス祭」については，大変人気があり有意義な事業であるため，今後においても，ぜひ発展させながら継続実施してもらいたい。取組達成の状況欄の記載内容がすべて達成した内容となっているため，評価がなぜBなのかがわからない。「おおむね達成されたが，少しこういう点で改善の余地がある。取組達成の状況)→だから，こういった改善の方策をとる。(改善の方策)」といった流れの方がわかりやすいと考えます。
	○大学及び附属間連携 ・附属学校運営会議のマネジメントのもと，大学・学部と一体となった附属学校園の連携を進める。 ・大学教員と附属学校教員が研究テーマを共有し，大学・学部内の人的物的資源の効率的活用を図る。 ・附属学校教員が研究実践の一環として大学・学部の授業を担当する。	・三附属連携推進協議会で，幼小中の研究発表交流会を行い，継続性に着目したカリキュラムの策定の視点から，今後の附属の研究のありかたについて探ることができた。また，いじめ防止研修会を行い，いじめ問題への対応を学んだ。 ・幼稚園や中学校の様々な行事への参加を教員に呼びかけて，交流の深化に努めた。近畿国立大学附属学校連盟の夏期研修会に参加し，附属間の交流にも努めた。 ・各教科等において大学教員と共同研究を積極的に進めた。 ・研究発表会では，助言者として多くの大学教員に指導助言を受け，専門的な視点から深く広く学べた。 ・大学授業(リフレクション及び学部授業)を附属学校教員が担当した。	B	・幼小中の継続性に着目したカリキュラムの策定を更に進める。 ・幼小中合同の避難訓練をさらに充実させるなど三校園合同の行事を行う。 ・「大学教員と附属学校園教員との連携専門部会」の組織を積極的に活用する。 ・研究面だけでなく，学校で日常的に起きる諸問題や課題についても大学と連携して取り組むための組織づくりを模索する。	
	○教育実習 ・大学の計画に基づき，実習生の資質や能力を高められるような実地教育を行う。	・国立教育大学の附属小学校としての教員養成の責務を教員に繰り返し説くと共に，大学から附属学校への教育実習校としての評価や期待を教員に周知して教員の意識向上を喚起しながら，実地教育の充実を図った。 ・初等基礎実習において，共同立案授業等の充実した取り組みが行えた。	B	・タイムマネージメントを行い，限られた時間の中で効果的な実習指導が行える方法を大学側と協同で模索していく。 ・実習生の資質能力の向上と共に，教員の資質能力も高めていく。	